

旧約聖書のぶどう酒

「わざわいのある者はだれか。嘆く者はだれか。争いを好む者はだれか。不平を言う者はだれか。ゆえなく傷を受ける者はだれか。血走った目をしている者はだれか。ぶどう酒を飲みふける者、混ぜ合わせた酒の味見をしに行く者だ。ぶどう酒が赤く、杯の中で輝き、なめらかにこぼれるとき、それを見てはならない。あとでは、これが蛇のようにかみつぎ、まむしのように刺す。あなたの目は、異様な物を見、あなたの心は、ねじれごとをしゃべり、海の真ん中で寝ている人のように、帆柱のてっぺんで寝ている人のようになる。『私はなぐられたが、痛くなかった。私はたたかれたが、知らなかった。いつ、私はさめるだろうか。もっと飲みたいものだ。』」(箴言23:29-35)

いつ、私はさめるだろうか。もっと飲みたいものだ。』」(箴言23:29-35)

ぶどう畑の地

旧約聖書の契約の民にとって「約束の地」であるイスラエルの地は、「乳と蜜の流れる地」と言われている(出3:8)。それは肥沃な畑とぶどう畑とオリーブ畑に恵まれた地でもあった(⇒民16:14, 申6:11-12, ヨシ24:13, 1サム8:14, ネヘ5:4-5, 11, 詩107:37, 雅1:6, イザ36:16-17, 65:21, エレ32:15, エゼ28:26, アモ9:14, ハバ3:17)。この土地は気候が温暖なのでぶどう畑を作り、健康で豊かなぶどうの実を生産するのに適していた。ぶどうの収穫量はイスラエルの毎年の農業生産の中で最高だった。したがって旧約聖書にはしばしばぶどうや干しぶどう、ぶどう酒のことが出てくる。ぶどうは干して、干しぶどうにすると栄養価の高い食品、エネルギー源として保存ができ一年中食べることができた。またぶどうの果汁を煮て濃いシロップ状にすると腐ったり発酵(自然にアルコールになる)するのを防ぐことができた。濃いシロップ状のものは甘いシロップまたはゼリーとして長期間使うことができたし、水で薄めてぶどうのジュースにすることもできた(⇒「新約聖書のぶどう酒」の項 p.1870)。

旧約聖書の時代、食事のときに飲む飲み物は一般的にぶどう酒だった。イスラエル人が飲んでいたぶどう酒は明らかに発酵したもので、泥酔問題を引起す可能性があった(発酵は果物の糖分に酵母が作用してアルコール分を作り、酔いを招く飲み物にしてしまう)。旧約聖書で最初にぶどう酒が記録されている箇所には泥酔、恥、のろいが結び付いている(創9:21-25, ⇒創9:21注)。また旧約聖書には発酵したぶどう酒について強く警告をしている箇所がいくつかある。たとえば、「ぶどう酒は、あざける者。強い酒は、騒ぐ者。これに惑わされる者は、みな知恵がない」(箴20:1)や、「しかし、これらの者もまた、ぶどう酒のためによろめき、強い酒のためにふらつき、祭司も預言者も、強い酒のためによろめき、ぶどう酒のために混乱し、強い酒のためにふらつき、幻を見ながらよろめき、さばきを下すときよろける」(イザ28:7)などである。アルコール飲料には人を墮落させる可能性があるので、神はイスラエルの祭司たちに奉仕をするときにはぶどう酒やほかの強い酒を避けるようにと命じられた。この命令を破ることは重大な問題で、背いた祭司は死刑にされた(レビ10:9-11)。神はまた、ナジル人の誓いをした人にはぶどう酒や強い酒を禁止(完全に断ち切る、または避ける)された(⇒後述「ナジル人とぶどう酒」の部分)。

旧約聖書ではぶどう酒を喜びのときの好ましいものとして扱っているところもある。たとえば預言者ゼカリヤは神がエフライムを回復することに触れて「その心はぶどう酒に酔ったように喜ぶ」(ゼカ10:7a)と言っている。けれども預言者は続けて「彼らの子らは見て喜び、その心は主にあって大いに楽しむ」と言っている(ゼカ10:7b)。つまりエフライムが喜ぶのはぶどう酒によるのではなく、神との関係と祝福によるのである。旧約聖書でぶどう酒を肯定的に扱っている箇所は(たとえばゼカ10:7)、ぶどう酒に酔ったために悲惨な結果を招いた以下のような文と照らして見なければならぬ。創世紀19章30-38節、箴言23章29-35節(注も)、31章4-5節(注も)、イザヤ28章7-8節、エレミヤ25章27節、51章39節、57節。

聖書の中でぶどう酒が好意的に扱われている場合はほとんどが新鮮な未発酵のぶどうの果汁のことで、これもぶどう酒と呼ばれている。

ぶどう酒を示すヘブル語

旧約聖書で一般的に「ぶどう酒」と訳されているヘブル語は二つある。

(1) 最も一般的な用語は「ヤイン」で141回使われている。これは発酵しているぶどう酒(アルコール分を含む)と未発酵のぶどう酒(果汁)の両方を指している(→ネヘ5:18に「あらゆる種類のぶどう酒(ヤイン)」とある)。

(a) 「ヤイン」はあらゆる種類の発酵したぶどうの果汁を指している(→創9:20-21, 19:32-33, 1サム25:36-37, 箴23:30-31)。発酵したぶどう酒を飲んだことによる悲惨な結果は旧約聖書全体を通じて様々な箇所で見られるけれども、ことに箴言23章29-35節は顕著である。

(b) 「ヤイン」は時には未発酵の甘いぶどうの果汁、特にぶどうから搾り出されたばかりの新鮮な果汁のことも指している。イザヤはモアブの滅亡について預言したとき「酒ぶねで酒(ヤイン)を踏む者も、もう踏まない」(イザ16:10)と預言した。預言者エレミヤは「私は酒ぶねから酒(ヤイン)を絶やした。喜びの声をあげてぶどうを踏む者もなく」(エレ48:33)と言っている。エレミヤはまだぶどうの中にある果汁のことも「ヤイン」と言っている(→エレ40:10, 12)。「ヤイン」が確かに未発酵のぶどうの果汁を指している例が「哀歌」の中にある。そこで著者は普通の食べ物である「穀物とぶどう酒」を求めて母親に泣き叫ぶ幼子のことを書いている(哀2:12)。学者たちも「ヤイン」(ぶどう酒)は未発酵のぶどうの果汁のことを言っていると解説している。また、「ぶどう酒」という用語が未発酵のぶどうの果汁を指しているという事実は学者たちの研究によって支持されている。「ユダヤ百科辞典(JE)」(1901)は「発酵以前の新鮮なぶどう酒は「ヤイン・ミガット」(大桶の中のぶどう酒)と呼ばれる」と言っている。「ユダヤ百科大辞典(EJ)」(1971)もまた「ヤイン」という用語がぶどうの果汁のいくつかの段階を指し、その中には「新しく搾り出された発酵以前のぶどう酒」も含まれるという事実を証言している。「ヤイン」と同じものを指す新約聖書のギリシヤ語「オイノス」について →「新約聖書のぶどう酒」の項 p.1870

(2) 「ぶどう酒」と訳されるもう一つのヘブル語は「ティーローシュ」で、「新しいぶどう酒」または「収穫のぶどう酒」を意味した(民18:12, 申7:13)。「ティーローシュ」は旧約聖書の中に38回出てくるけれども、発酵した飲み物を指していることは一度もない。それはまだ搾られていないぶどうの中にある果汁(イザ65:8)や、収穫されたばかりのぶどうの果汁を意味していた(申11:14, ヨエ2:24)。「ティーローシュ」は大抵の場合、ぶどうからの搾りたての新鮮な果汁を指しているので、「新しいぶどう酒」と訳されていることが多い(箴3:10, イザ65:8)。

(3) 旧約聖書では関連した「シェカール」ということばが23回使われている。それは「自由に飲む」または「酔わせる」という意味の「シャカール」というヘブル語の動詞と関係している。このことばはしばしば、「酒」(1サム1:15)や「強い酒」(民6:3)と訳されている。「シェカール」はざくろ、りんご、なつめやしなどほかの果物から取った発酵した飲み物のことも指していた。「ユダヤ百科辞典(JE)」(1901)は「ヤイン」が時には水で割った発酵飲料を指し、「シェカール」は水で割ってないものを指すと言っている。けれども「ヤイン」は時には心を満たす未発酵の甘い果汁を指す場合もあった(ロバート P. ティーチアウト著「旧約聖書のぶどう酒の用法」-ダラス神学校神学博士(Th.D)論文(1979))。「ヤイン」と「シェカール」が一緒に用いられる場合、大抵は酔いを招く飲み物を意味する一つの比喩的表現になっている。

旧約聖書では「ヤイン」と「シェカール」が発酵した(アルコール分を含む)酔いを招く飲み物として使用されたときの悲劇的結果が様々な指摘されている(箴4:17, 23:29-35, 創9:20-27, 19:31-38)。ある場合にはその影響ではなく、飲み物そのものが非難されている(→箴20:1注, →「新約聖書のぶどう酒」の項 p.1870)。アルコール飲料は自分を抑制できなくさせ、不道德な行動をとらせ、善悪についての神の基準に抵抗したり、拒んだりさせてしまう。ある人々は解放感、喜び、満足感を得るためにアルコール飲料に依存する。けれどもこれらのものはもともと神と神の目的によって得られるはずのものである。神のことばは

